	主　な　意　見　等
第１回 調整会議	・ この地域は比較的各病院の役割分担がはっきりしていて、いろいろな情報を共有し協力してやっている地域と考えており、冷静に数値を見て分析し、詰めていく必要があると思う。 ・ 中小病院にとって一番切ないところは医師確保。何とか医師を確保しながらこの地域に合った必要な医療を提供していくことを考えていかなければならない。 ・ 「競合」から「協調と連携」という方針は揺るぎないもので、情報を共有し、人口が減っていくなかで地域の医療も存続していかければいけない。国は地域医療連携推進法人や個別病院間でのＭ＆Ａ等も狙っていると思う。一見表面上は役割分担ができているように見られるこの地域でも、具体的項目については問題をはらんでいる部分もあり、スピード感を持って、地域全体でどう連携をとっていくのか協議しなければならない。 ・ Ｕ・Ｉターンの対象と考えている医師は、卒業してそれぞれの経験を積んで出来上がった医師を想定しているのか、研修医・専攻医等も視野に入れているのか。 →　医師確保については幅広く考えている。仕事をするうえで分岐点にさしかかり、思い立って新潟、上越に戻ってみようという方がいれば、まずそれが１つのターゲットだが、他の対象を排除するものではない。（事務局） ・ 本当に困っている現場は大病院ではなく小さな病院。研修医に良い指導をしようとすれば自分の仕事が出来なくなる。研修医が戻ってきてくれるような良い思い出と充実感を持ってもらうためには、それなりの準備と覚悟が必要である。 ・ いろいろなアンテナを張って、なりふり構わずあらゆる伝手を使い、何とか医師を確保しているのが現状。限られた予算では難しいと思うが、パンフレットを作って、それで来ても

	らえるものか疑問。 ・ 他県といっても困っている県も多いので、東京、金沢など範囲を狭めてアンテナを張る方がよいのではないか。 ・ 地元の街としての魅力を高め、住環境や教育環境を整えないと若手の医師は来ない。また、地元に対する愛着心を持ち、地元を救おうという心意気のある若手が育ってこないと、将来はない。 ・ 医師ならば誰でもよいわけではなく、地域の医療体制の中で何科の、どの医師が足りないのか、議論してほしい。 ・ 今はホームページの時代であり、パンフレットの作成に時間をかけて議論してもあまり意味がないのではないか。 ・ 魅力的な病院づくりをすることで医師を確保出来ると思う。北陸新幹線が出来て、東京から医師に来てもらうのはそれほど難しいことではないが、もっと数を増やすには、「かがやき」を停車させる等、交通の便をよくすることも重要。 ・ 医師の定住を望むに越したことはないが、交通機関が発達しており、柔軟に考えて、パーシャルな対応でも良い気がするので、その辺も考慮してはどうか。 ・ 病院の労働力の大半は看護師であり、病床数を考えるうえで一番の規定因子でもある。地域ごとの看護師数の経年変化などがわかるデータを提供いただきたい。